

みろく



前回のあらすじ

幸運の船「天社丸」をはじめ、多くの船を手に入れて海運業を軌道に乗せた神原勝太郎。彼が次の目標として掲げたのは、新造船の建造でした。持ち船の改造・修理・点検を目的に立ち上げた塩浜造船所で、天社が初めて自らの資金と技術で完成させた新造船。その名は「第4号天社丸（積みトン数370トン）」。ここから造船と海運という2本の柱で海とともに生きる常石グループの新たな歴史が始まります。

海運の大革命
「機帆船」の時代に突入

「第4号天社丸」は、その巨体を生かして天社の安定期を支え続けてくれました。もちろん持ち船も確実に増やして、「第4号天社丸」の他、十数隻の船を駆つて瀬戸内の石炭輸送を支える若き海運事業家としての地歩も確実に固めていきました。

すでに時代は大正から昭和へ。

この頃になると、帆とエンジンを備えて瀬戸内海を航行する船の姿が見られるようになりました。主に漁船や船（はしけ）などの小型の船でしたが、風が凧（ひ）でいる時や潮流が逆の時などは発動機でプロペラを回して進み、順風や潮に乗れる時は帆走で距離を稼ぐ

*機帆船です。

また、当時としては大出力（100馬力前後）の発動機を備えた船を先頭に、その後ろに帆柱のない船を何隻もつないで、主に石炭を輸送する曳船（えいせん）なども見られるようになっていました。

海運業界には、確実に近代化の波が押し寄せようとしていたのです。

※機帆船

ンで走行できる船ということになります。ほとんどの場合構造が簡単で、修理・修繕のしやすい焼き玉エンジンが搭載され、ポンポンポンという独特のエンジン音を響かせて航行していました。

天社の被曳船団
瀬戸内海を進む

備後常石を本拠に、北九州の若松と大阪の安治川を結ぶ瀬戸内石炭航路にしつかりとした基盤を確立した若き海運事業家・神原勝太郎は、海運技術の革新にも敏感でした。

いち早く取り入れたのが、高出力エンジンを備えた曳船（えいせん）を外して、新たな居住スペースを取りつけて被曳船（曳かれ船）でした。（曳き船は別会社と契約します）

老朽化した天社の帆船の帆柱を取りつけて被曳船に改造しました。こうして多くの天社の帆船（帆と帆柱がないため、積載量もわずかにアップ）が被曳船に改造

海とともに生きる②

明治・大正・昭和を生きた 誇り高き海運事業家の歴史

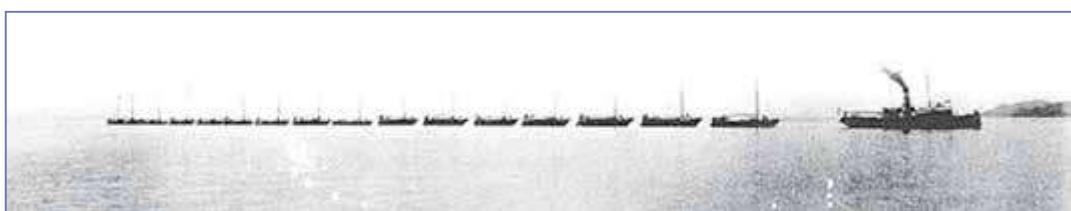


機帆船

されていきました。

波静かな瀬戸内海を、焼き玉工ジンの音を響かせながら進む曳船に曳かれた天社の被曳船団は、大幅に輸送効率を改善させて「昭和」という新たな時代に乗り出しました。

これ以後、ほどなくして機帆船の時代に入り、やがて鉄鋼船が出現することになるのですが、それはまだ後のことになります。



曳き船に曳かれた被曳船団

※被曳船のメリット

- ①帆走技術の未熟な若い船乗りでも、舵取りさえできれば被曳船の操縦が可能であり、1隻当たりの乗組員も2人か3人。
- ②風や潮流の影響を受けないため、輸送日程が組みやすい。
- ③一度の航海で10000トン近くの石炭輸送が可能。
- ④波静かな瀬戸内海では、被曳船は帆船よりもむしろ安全。

新しい会社の名前は「瀬戸内海運送株式会社の設立と成長」明治36年に「住吉丸」の船主兼船長となつて海運業に乗り出し、明治、大正、昭和というそれぞれの時代で確実に事業を拡大してきた勝太郎が、個人の才覚と行動力で経営してきたのが「天社」です。そんな天社は昭和11年に、次の時代に向けて、株式会社化という新しい一步を踏み出します。

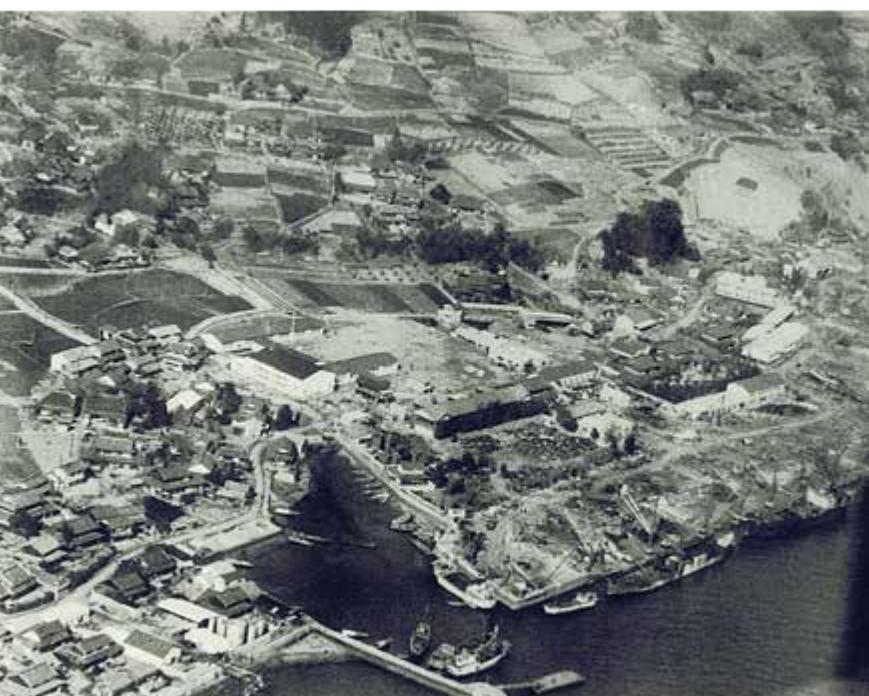
新しい会社の名前は「瀬戸内海運送株式会社」。代表取締役は神原勝太郎。石炭輸送の主役となつていた機帆船を多数所有し（ほとんどが天社所有の船）、玄界灘（福岡県、佐賀県）、有明海（佐賀県、福岡県、熊本県、長崎県）など九州炭の主な積出港

と、大阪の安治川港を結ぶ瀬戸内ゴールデン航路で活躍し、近代的海運会社の立ち上げ責任者はなつた神原勝太郎、この時58歳。

20歳の時に「住吉丸」を手に入れて石炭輸送に従事してから、38年の年月が流れています。

資本金10万円、株主27人でスタートした瀬戸内海運送株式会社の経営の順調さを、資本金の増資の記録が物語っています。2年後の昭和13年には30万円、昭和16年になると110万円と、わずか5年で11倍もの増資を成し遂

げていることを見ても、その急成長が分かると思います。



造船所風景

戦争に向かう時代の中でも確実に業績を築き上げ、瀬戸内屈指の海運業者としての地位を築いた神原勝太郎。そんな勝太郎のもう一つの「海に関する事業」は造船業です。

所有船舶の修理・修繕・改装などを目的に開設した塩浜造船

塩浜造船へ



所では、すでに「第4号天社丸」をはじめ、数多くの木造船建造の実績を誇っていました。ここで建造した船は「操船が容易で頑丈」という評判を受け、瀬戸内海各地の港に塩浜造船建造の船が係留されるようになっていました。

そんな造船業に関する勝太郎の信条は、「船は水に浮かせるものだから、沈まない船が良い船と言える。見かけよりも安全性と操作性こそが船の生命」というものでした。この信条は、塩浜造船所の船大工たちにしみついた、誇りのようになっていたということです。

天社から発展した瀬戸内海運送株式会社の船もまた、大半は塩浜造船所で建造された船でした（塩浜造船所は勝太郎個人の造船所）。ところが昭和12年12月8日に太平洋戦争が勃発すると、その翌年、塩浜造船所は大きな転機を迎えます。

それは国の戦時体制のもと、造船業界の統合という大改革です。瀬戸内に大小200以上あった造船所を統合して、約4分の1にまとめるというものでした。これを受けた常石地域では、実績と資本力も十分な塩浜造船所を中心、他の中小の造船所を吸収して新たな造船会社を設立することになりました。



オーナーも役員に名を連ねて、昭和17年4月30日に資本金18万円で、いよいよ戦火の激しくなる世界情勢の中に船出していくことになったのです。

瀬戸内海運送株式会社の解散

一方の海運業に関しては、大きなピンチに見舞われます。戦時になると、勝太郎が経営していた瀬戸内海運送株式会社に問題が

生じ始めたのです。それは、優秀な船員と優秀な船舶が、徴用という名のもとに国に引き取られてしまつたことです。船舶はもちろん、船員の徴用は大きな痛手でした。これ以後、瀬戸内海運送株式会社の船の海運事故が、目に見えて増えたのです。

「このままでは海運業は成り立たない」。勝太郎は瀬戸内海運送株式会社を、会社ごと三井造船に譲ることを決心しました。瀬戸内海運送株式会社は、7年の歴史

を刻んだ後、不本意ながら幕を閉じました。ただし、三井造船への売却額は220万円。10万円の資本金でスタートした会社は、22倍もの金額で引き取られたのです。そのお金は、27人の株主には株式の持ち分相当として、従業員たちには臨時ボーナスとして分配されました。

神原家のレシピ 第1回

第3世代 神原 祐子さん



巻き寿司

今号から連載する新企画「神原家のレシピ」。
神原家に代々伝わる美味しい料理をご紹介します。

材料

- ・ご飯 3合 (+昆布)
- ・海苔 10枚ぐらい
- ・干し椎茸 3個 (水に浸けて一晩置いておく。戻し汁は煮る時に使う)
- ・ほうれん草 1把
- ・かんぴょう 半袋
- ・穴子 2匹
- ・卵 3個
- ・海老 10尾
- ・調味料 酢、砂糖、塩、酒、醤油、みりん



作り方

①ご飯3合（昆布を乗せて）を炊く。炊き上がったら昆布を取り、ご飯にみりん少々をかけてそのまま蒸らす。しばらく置いてご飯を取り出し、酢半カップ・砂糖大さじ1・塩少々を煮たものをかけて、あおぎながら混ぜる（酢飯を作る）。



②（ご飯を炊いている間に）戻し汁を使って、干し椎茸を砂糖（多め）・酒・塩・醤油・みりん（それぞれ少々）で甘辛く煮る。

③かんぴょうは塩で揉んでから洗い、水から茹で、柔らかくなったら椎茸を煮たのと同じ材料で10分ほど煮る。

④ほうれん草を湯がいて取り上げたら、醤油少々をかけて絞っておく。

⑤穴子は、酒・砂糖・醤油（適量）でしっかり煮てから焼く。

⑥卵は、砂糖多め・醤油・みりん・塩少々を入れて溶かし、厚めに焼く。

⑦海老は、湯にお酒を入れて湯がいて

乾煎りし、細かくしておく。

⑧巻いていきます。光沢があるツルツルした方を下に、海苔を巻きすの上に置き、上を2cmほど空けてご飯を薄く乗せ、具をそれぞれ少しづつ全種類乗せる。

⑨海苔の端（上方）をぬらし、手前にあるのりを巻きすごと持ち上げ、具材を軽く押さえながら巻く。

⑩巻きすを両手で軽く握り、形を整える。

⑪巻きすを外して、巻き寿司を2cmから2.5cm幅に切って出来上がり。



新型コロナ・ウイルス感染症 医師からのお知らせ

神原達也さんが医師の立場から、新型コロナウイルス感染症についてお書きくださいました。
(2020年5月中旬現在)

神原 達也さん

病のある方が重症化しやすいのは確かですが、まだ確実な治療法が確立されておらず、対症療法しか方法がないのが現状です。だからこそ、予防をしっかりとしてください。

自粛で家に閉じこもった結果、うつ病傾向になる人もおられますので、感染対策をしていれば外出しても良いと私は考えます。

感染経路は飛沫と接触

皆さん、元無沙汰しております。今年はファミリー総会も開催見送りとなり、お会いできず残念でしたが、その原因となつた新型コロナウイルスについて、医療に従事している者としてお伝えいたします。

この病気は、昨年末に中国の武漢から広がつたとされる「SARS-CoV-2」(ウイルス名)に感染して起つるもので、「COVID-19」(疾患名)と名付けられています。ウイルス名から想像できる通り、数年前に流行したSARSやMERSと同じウイルスです。しかし種類は同じでも別の病気です。

潜伏期間ははつきりと分かつておらず、1日から12日程度とかなりの幅で報告されています。そのため隔離は2週間となつたようです。

感染経路は主に飛沫感染と接触感染です。飛沫感染とは、感染者のくしゃみ・咳・つばなどに含まれたウイルスを他者が吸い込むことで感染するものです。接触感染とは、感染者が飛沫で汚れた手で触つたものを他者

が触り、ウイルスの付着した手で口や鼻に触る事で感染するものです。その他に糞口感染(便に含まれるウイルスが感染源となる)なども疑われています。また最近では、血管内や神経内にもウイルスが侵入して症状を起すことも分かつてきています。

うがい・手洗い・マスクが基本

感染防止対策として、うがい・手洗い・マスク着用などが盛んに言われています。

マスクに関しては、ウイルスの侵入を防げないという意見もありますが、口や鼻を手で直接触る回数が減るため、接触感染のリスクは確実に下がります。

アルコールによつてこのウイルスは死滅しますのでアルコール消毒も有効ですが、濃度は60%以上(できれば70~75%)必要です。アルコール濃度が低いと殺菌に時間がかかり効果も弱く、逆に濃度が高すぎると殺菌効果を発揮する前にアルコールが蒸発してしまいます。アルコール濃度の高いお酒は、不純物(アルコールが蒸発した後に残つたもの)が害

を及ぼす可能性があり、おすすめできません。

手洗いは、確実に洗い流すことが大切です。文具メーカーのシャチハタが、子ども向け手洗い練習スタンプ(手のひらにスタンプを押し、せつせんで洗えば30秒ほどで消えるもの)を売っていますので、試してみてはいかがでしょう。

予防の徹底が最大の対策

自分が感染したか不安な方は、症状がなければ自宅で様子を見ていただければ結構です。症状として一番多いのは、発熱・咳・などの痛みなどの風邪症状です。また、嗅覚障害・味覚障害・下痢などの消化器症状で発症する場合もあるようです。このような症状がある場合、近くの医師に連絡してから受診されるのが良いでしょう。

最近では、脳梗塞や心筋梗塞、子どもでは川崎病を起こすという報告もあります。しかし、これらは初期には起つておらず、実際に起つた患者も少数です。もともと持

体と心のメンテナンスを忘れずに

日本では今のところ、医療崩壊につながる経過しています。

その要因の一つは、生活習慣のおかげではないでしょうか。マスク着用への抵抗の低さ、小さい時から手洗い・うがいを教えられていること、玄関で靴を脱ぐことなどです。そして何よりも、「強制」ではない「要請」の段階で、不要不急の外出を控える国民性が挙げられると思います。

詳しく知りたい方は、どうぞご質問をお寄せください。体と心のメンテナンスをお忘れずに、日々

サマースクール中止のお知らせ

今年のサマースクールは、感染症の影響で、残念ながら募集を中止させていただきます。来年以降は安心して参加できるよう、皆で協力してコロナを乗り切りましょう!



パラグアイレポート

report



昨年11月、神原和人さんと神原健人さんがパラグアイとウルグアイを訪問しました。その模様を2人に執筆いただきました。また、教育・家訓委員会を代表して、神原潤さんにコメントを寄せていただきました。

南米旅行で学んだ現地の人々の文化と、故郷や人との心のつながりの強靭さ

神原和人さん

10年ぶりの南米

前回南米に行つたのは、もしかすると10年以上前だったかもしれない。その時はほとんどウルグアイの農場で過ごし、なぜ自分がそんな場所にいるのかなど考えすらしなかった。それはある意味、その場所にいることにあまり違和感を持たなかつたということなのかもしれない。

10月、潤叔父さんの南米出張に同行したいと言つたのは完全に自分のわがままであつたが、いざ行くとなると10年間会つていない知人に会うよう、不安と期待が混ざつたような気持ちがあつた。

パラグアイ初日は首都のアスンシオン。南米に来たことがあるとは言つたもののパラグアイは初めてで、現地に着いてからも、これまでに見たことのない種類の街並みに今一つパラグアイ人の暮らしのイメージが定まらない。

ただ、スーパーの広すぎる肉「チーナー」や、その晩夕食をいただいたアサードのレストランで肉の山の洗礼を受けたおかげで、初日の晩には少なくとも、この国の人々はと

にかくたくさんの肉を食べるのだといつことだけは、はつきりと理解できた。

神原健人さん

吳から移住された小田さんの日本食レストラン「ヒロシマ」で

パラグアイに到着して2日目、チャーターのセスナ機でパラグアイの東、ブラジルとの国境にあるシウダーデルエステへ向かった。11月のイグアスの滝は乾期で水が少なかつたらしいが、代わりに水の白いきれいな姿が拝めた。

イグアスの滝とイグアス移住地を訪れた後、我々は再び飛行機に乗り、今度はパラグアイの南に位置するエンカルナシオンへと向かった。



受け継がれる日本人の心



翌朝は、沿隈移民も暮らすラパス地区へ。ラパス日本人会では、南米で生まれ育つた次世代にカルタ遊びなどを通して、移住し

ラグアイへ移住されたうちの一人で、ジャングルしかなかつた土地にたどり着いてからの苦労や、パラグアイでの事業の可能性についても熱く語つてくださつた。自分もこれくらい力強く生きられたらと思うほどパワーに満ちた方だった。



夕食は、常石造船ATP工場の顧問もしていただいていた小田さんが、ご家族で経営されている日本食レストラン「ヒロシマ」。肉料理が主流のパラグアイでは魚があまり手に入らないとの

ことだったが、出

てきた料理は少しもそれを思わせない、日本にも負けないほどの品ばかりだった。小田さんは吳から沿隈移民とご家族でパラグアイへ移住されたうちの一人で、ジャングルしかなかつた土地にたどり着いてからの苦労や、パラグアイでの事業の可能性についても熱く語つてくださつた。自分もこれくらい力強く生きられたらと思うほどパワーに満ちた方だった。

てからの道のりを伝える活動などを紹介していただいた。併設する歴史資料館には、これまでに使われてきた農具や、今ではほとんどが農地になっていて見当たらないジヤングルを背景に農作業を行う姿や、電気を節約しようと集まつて夕食を取る様子などを写した写真などが展示されていた。

アスンションに戻った翌日の土曜日は、町で日本人祭りが開催された。わつしょい、太鼓やよさこいなどのショーは日本への強い思いを感じさせた。

日系人ではない地元の方々も数多く来場していて、現地の方々も日本を身近に感じてくれているんだなと思った。「日本人は嘘をつかないし、働き者だ」と、移住者たちは子どもたちに伝えてきたのだという。これほど故郷から離れた場所にいても、彼らが受け継ぎ、持ち続けた心を、この祭りは皆に見せつけたのだった。



肉食主体の食文化 日本食への関心も高い

次に訪れたのはウルグアイ。首都のモンテビデオに着いた晚。町のレストランの地下で、ウルグアイで作っているワインのティステイングと弥勒米を使ったワインに合うお寿司の作り方講座を兼ねたイベントを行っていた。南米でも日本食への関心は高まっているらしい。参加者は興味深そうに説明に聞き入っていた。



モンテビデオでのランチは、メルカド・デル・ペエルテにて。

港の隣に位置する大きな建物の中に肉を食べるバーのようなカウン

タ一席の店が迷路のように並び、それらがそれぞれ大きなグリルで肉をいくつも焼いている。観光スポットでありながら、地元の人の生活にも溶け込んでいるように見えた。

彼らにとって、神原家と南米とのつながりを肌で感じる渡航となり、それぞれ感じることの多い機会になつたことと思う。さまざまな地域やさまざまな時代からあるご縁の大切さを、こういった機会

えるのは、何となくヨーロッパの観光地を彷彿とさせる。

肉に始まり肉に終わつたような南米旅行だが、農業が大きなテーマであった中で、現地の人々の食文化をしっかりと楽しめたのは、あながち無意味ではなかつたようだと思う。

広大な農地。人々の縁と歴史。
多くを学んだ旅

初めてのパラグアイ。ウルグアイはおよ

旅で感じた驚きや感動を 同世代と共有してほしい

神原潤さん

そ10年ぶりではなかつたか。前回は存在さえ知らなかつた南米の持つ魅力に、今回は興味を持ったこと、実際触れられたことが、地からは脳量がするほど広大な人の世の中が覗けた方で、今回の旅行で知つた縁や学んだ歴史からは、そんな広さに抗う、故郷や人との心のつながりの強靭さを学んだ。もともとは、本当にこれほど充実した旅になるとは思つていなかつたのに、ここまで体験を可能してくれた皆様には、感謝してもしきれない。

話の始まりは、さまざまのことに対する興味を持つ和人の思いつきだったかもしれないが、僕自身幾度も南米の地を訪れるたびに、そのエネルギーと今の日本にはない南米独特の「日本」を感じ、祖父（秀夫）や眞人伯父さんのつないできたご縁の大いさを感じることができるパラグアイへの渡航を、和人・健人とともにできるこどを嬉しく感じた。

彼らにとって、神原家と南米とのつながりを肌で感じる渡航となり、それぞれ感じることの多い機会になつたことと思う。（和人から、潤叔父さんのスペイン語は聞き取りやすかつたと言われ、少し照れた。）

今『学校生活』に夢中です!

第5世代の方に、自分が「今」
好きなものを自由に紹介してもらいます。

神原 さくらさん



私は学校生活に夢中です。私は中学から大阪の中学校に通っています。私の通っている学校の部活動はシーズン制なので、春夏秋冬いろんなスポーツを経験することができます。私は運動が苦手なのですが、友達の説きもあり、冬シーズン、サッカー部に入りました。初めは、トレーニングやストレッチが面倒くさい、外が寒いなど、文句ばかり心の中で思っていた私です



が、試合に出たくて毎回欠かさず練習に参加し、アドバイスをもらい、選抜メンバーになることができました。

試合には他校の生徒がたくさんいて、長い時間一緒に過ごすので友達もたくさんできました。サッカー部に入っていたからなった出会いでしたので、説きてくれた友達、そして、サッカーに感謝です。



>>>

私は大阪へ出て視野が広がりました。インターナショナルスクールなので、いろんな国の人があります。英語が苦手な人もいれば、日本語が苦手な人ももちろんいます。英語をしゃべれるよう



になりたい私にとっては最適な環境の学校です。さまざまな国の文化を知ることができます。人それぞれ価値観も違うことを、改めて感じさせられました。



>>>

ストリングスという音楽のクラスでは、中レベルのクラスですがオケのコンミスをやらせてもらっています。私は英語が苦手なので、日本語が苦手な子に教えるの



は難しいので、英語も日本語もできる人が通訳をしてくれています。私の周りには優しくフレンドリーな人がいっぱい、毎日いろんな刺激を受けています。



>>>

初めは常石から大阪へ行くことの不安は大きかったです、嘘のようになります。たくさんの出会い、



経験に感謝しながら、これからもさまざまなことに励んでいきたいです。

スポーツデイにはそれぞれのチームカラーで臨みます。他にもハロウィンやふしげウイークという学校行事があり、仮装して登校します。

>>>

今は学校にも通えずオンライン授業での生活ですが、一刻も早く「普通」の生活に戻れるよう心から願って

います。皆様もどうぞ健康に気をつけてお過ごしください。

>>> 次回は、
神原菜々さんに
リレーします。
お楽しみに！



ファミリー予定

開催日：10月10日（土）（予定）

行 事：大般若祈祷法要（無明院本堂）

Hiroshima

Fukuyama★